



平成 28 年度 アンケート調査 (せきのまちづくり通信簿) 調査結果 【結果報告書・概要版】

調査の目的

「平成 28 年度アンケート調査 (せきのまちづくり通信簿)」は、総合計画に基づく関市のまちづくりをより着実に推進するため、関市民のまちづくりへの意識等を把握し政策への反映に生かすこと、及び「関市第 5 次総合計画」の策定のための資料とすることを目的として実施しました。

調査の概要

- 調査対象者 平成 29 年 1 月現在、関市に居住している 18 歳以上の市民 3,000 人
- 調査期間 平成 29 年 1 月 16 日から 2 月 1 日まで
- 回収方法 調査票による本人記入方式
郵送による配布、郵送による回収
- 回収結果 1,339 票 (回収率 : 44.6%)
- 報告書の見方

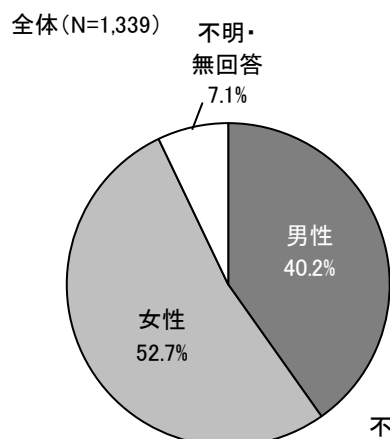
- ・グラフ中の「N」とは、Number of Cases の略で、各設問に該当する回答者総数を表します。
- ・グラフ中の「%」は、小数点第 2 位以下を四捨五入しているため、単数回答の設問 (1 つだけに 〇をつけるもの) であっても、合計が 100%にならない場合があります。

1

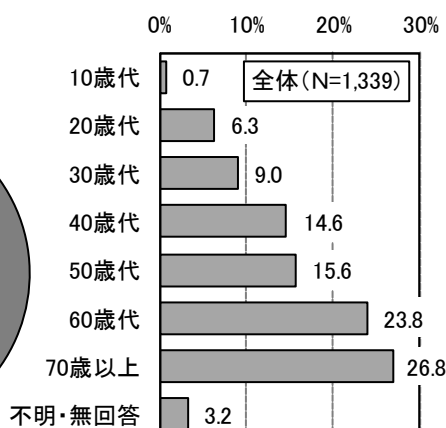
回答者の属性

回答者の性別は、女性がやや多く、回答者の年齢は 70 歳以上が最も多くなっています。また、回答者の居住地区は「関地域」で 79.8%と高くなっています。

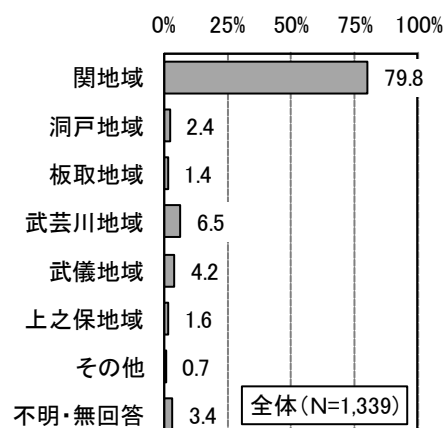
●回答者の性別



●回答者の年齢



●回答者の居住地区



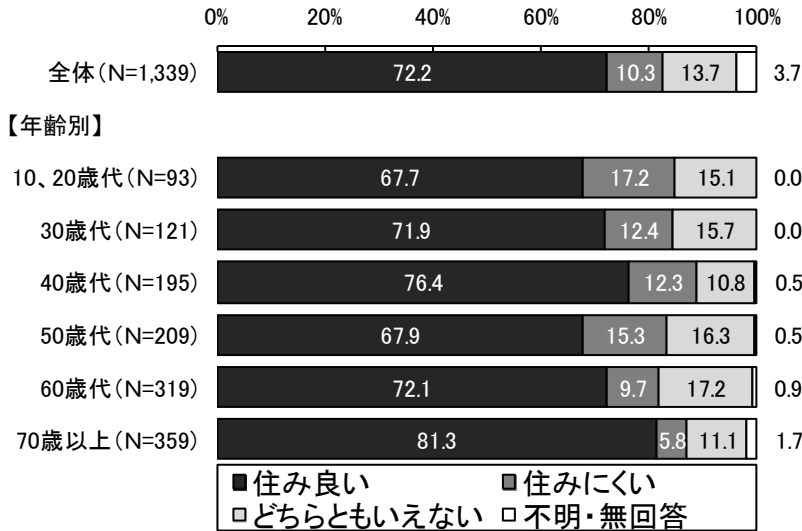
2

関市への居住意向について

回答者の72.2%が、関市を「住み良い」と感じています。年齢別でみると、いずれの年代でも『住み良い』が高くなってはいますが、10、20歳代、50歳代ではやや『住みにくい』とする割合が高くなっています。

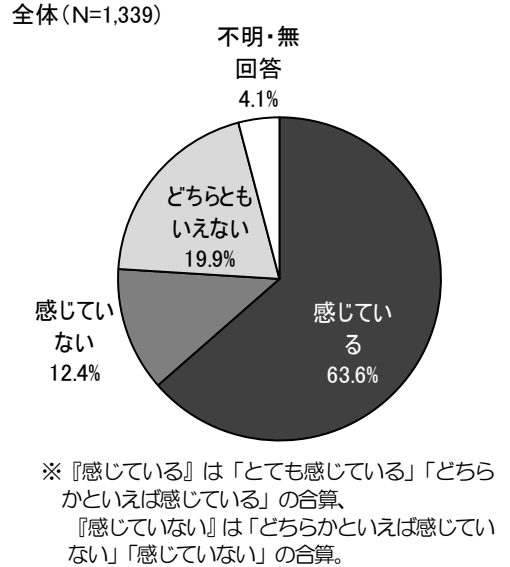
関市への誇りや愛着は、全体の63.6%が『感じている』と回答しています。

●あなたは関市が住みよいまちだと感じるか



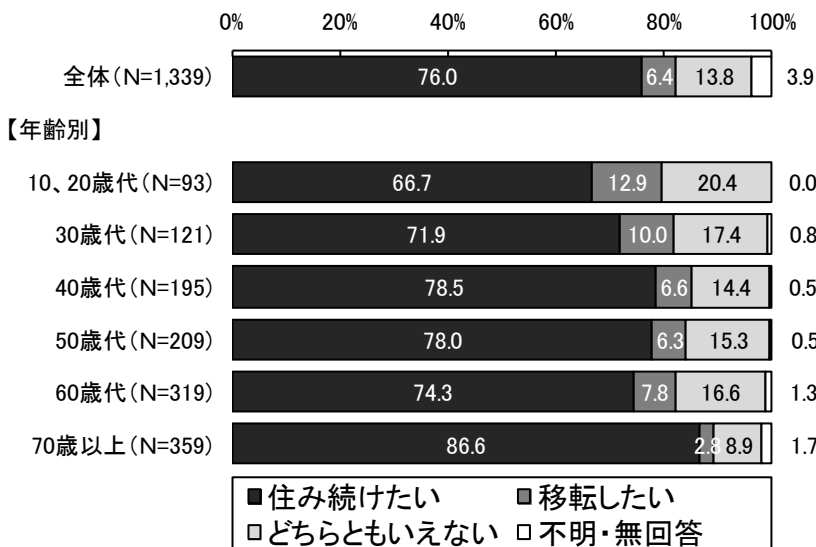
※『住み良い』は「住み良い」と「どちらかといえば住み良い」の合算、
『住みにくい』は「どちらかといえば住みにくい」と「住みにくい」の合算。

●あなたは関市に誇りや愛着を感じるか



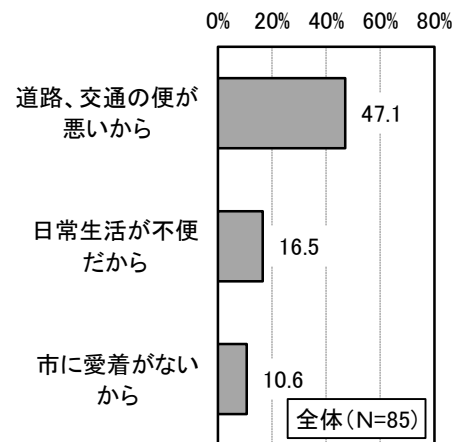
関市への居住意向については、全体の76.0%が『住み続けたい』としています。年齢別でみると、40歳代、50歳代、70歳以上で居住意向が高くなっています。また、『移転したい』と回答した人にその理由をたずねたところ、「道路、交通の便が悪いから」「日常生活が不便だから」とする割合が高くなっています。

●あなたは今後も関市に住み続けたいと思うか



※『住み続けたい』は「ずっと住み続けたい」と「当分は住んでいたい」の合算、
『移転したい』は「できれば移転したい」と「すくなくても移転したい」の合算。

●移転したいと感じる理由<上位3位> (※『移転したい』を選んだ方)

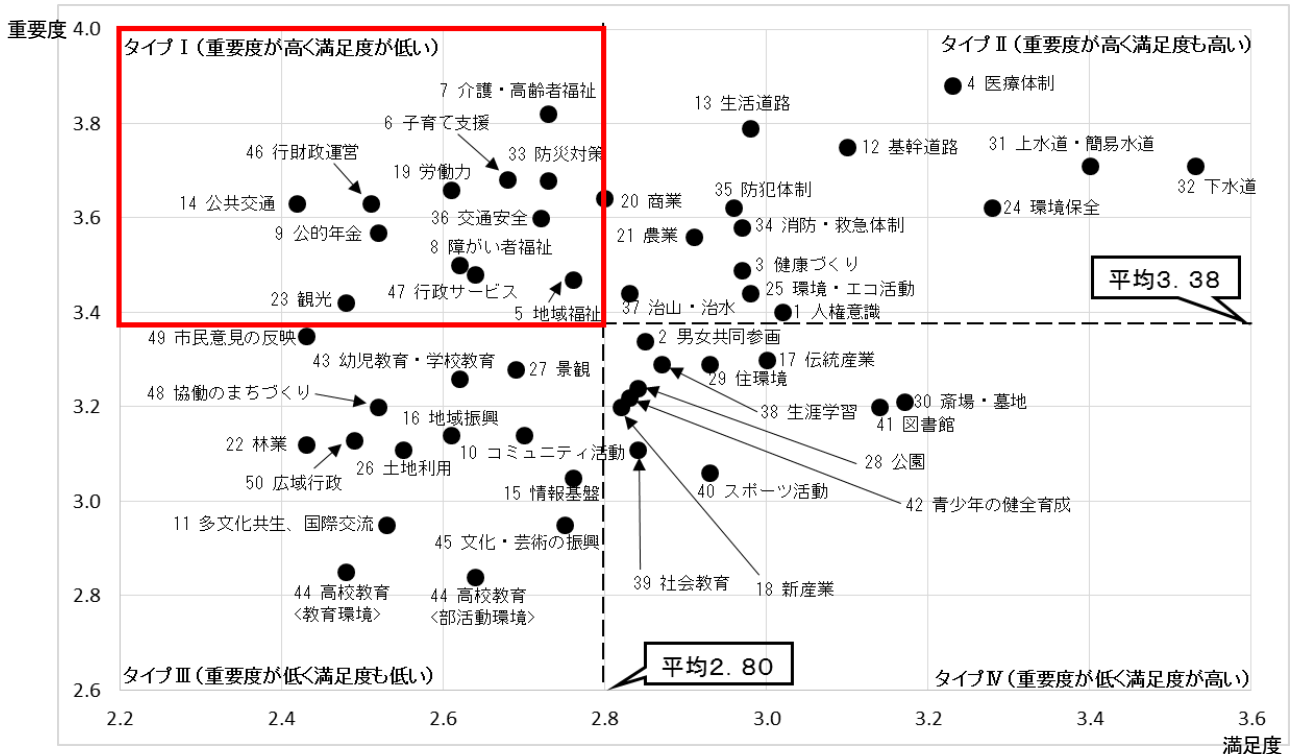


3

施策の満足度・重要度について

施策の満足度、重要度は次のようになっています。

● 施策の満足度・重要度のポートフォリオ分析



タイプⅠ（重要度が高く、満足度が低い）に分類されている施策を経年でみると、3年間継続して、「子育て支援」「介護・高齢者福祉」「障がい者福祉」「公的年金」などの福祉関連の施策、「公共交通」、「労働力」などの産業振興に関する施策、「行財政運営」「行政サービス」などの市政運営に関する施策があがっています。

● 「重要度が高く、満足度が低い」(タイプⅠ)に分類されている施策<経年比較>

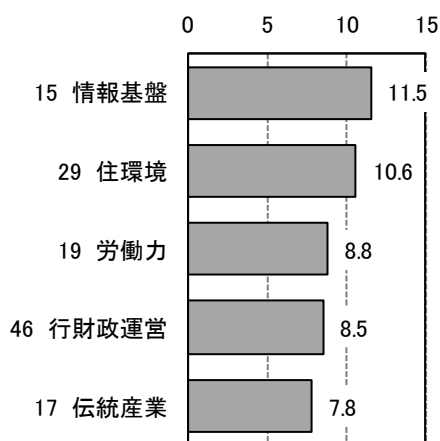
平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
6 子育て支援	6 子育て支援	6 子育て支援
7 介護・高齢者福祉	7 介護・高齢者福祉	7 介護・高齢者福祉
8 障がい者福祉	8 障がい者福祉	8 障がい者福祉
9 公的年金	9 公的年金	9 公的年金
14 公共交通	14 公共交通	14 公共交通
19 労働力	19 労働力	19 労働力
20 商業	20 商業	23 観光
	36 交通安全	33 防災対策
42 青少年の健全育成	43 幼児教育・学校教育	36 交通安全
46 行財政運営	46 行財政運営	46 行財政運営
47 行政サービス	47 行政サービス	47 行政サービス
49 市民意見の反映	49 市民意見の反映	

4

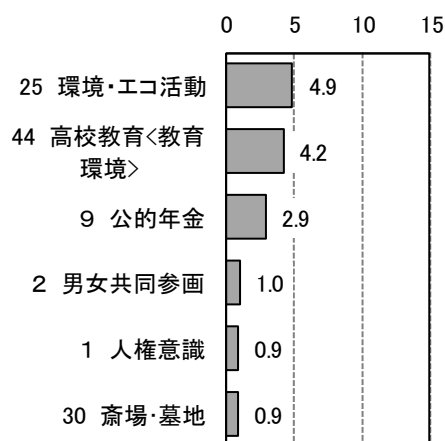
施策の満足の経年変化について

平成 23 年度調査と平成 28 年度調査を比較すると、『満足』では「15 情報基盤」が、『不満足』では「25 環境・エコ活動」が上昇しています。

●『満足』上昇 <上位5位>



●『不満足』上昇 <上位5位>



※『満足』は「とても満足」と「まあ満足」の合算、『不満足』は「やや不満」と「とても不満」の合算。

『満足』の上昇と、『不満足』の低下の差をみると、「46 行財政運営」で最も差が大きくなっており、満足が上昇しています。一方、『満足』の低下と『不満足』の上昇の差をみると、『30 斎場・墓地』で最も差が大きくなっており、満足が低下しています。

●満足が上昇した施策<経年比較・上位3位>

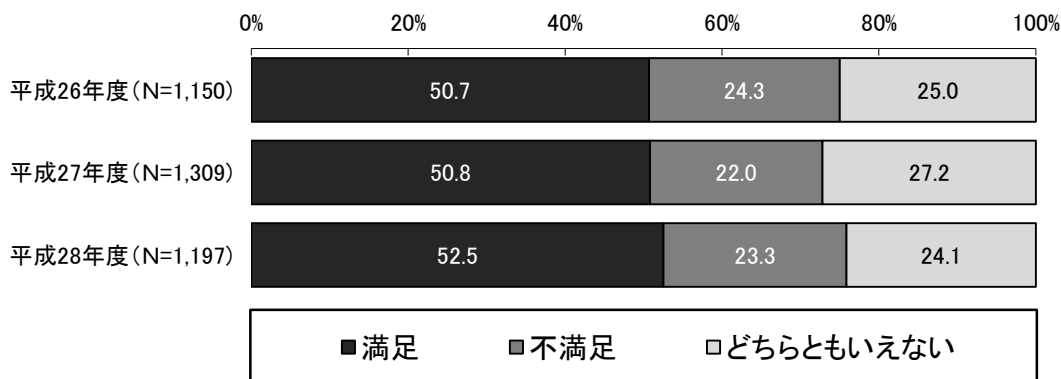
	満足上昇			
	施策	満足	不満足	差の合計
第1位	46 行財政運営	8.5	-18.9	27.4
第2位	19 労働力	8.8	-18.2	27.0
第3位	49 市民意見の反映	3.0	-14.4	17.4

●満足が低下した施策<経年比較・上位3位>

	満足低下			
	施策	満足	不満足	差の合計
第1位	30 斎場・墓地	-16.2	0.9	-17.1
第2位	31 上下水道・簡易水道	-12.4	-1.0	-11.4
第3位	25 環境・エコ活動	-6.2	4.9	-11.1

まちづくりの全体評価を経年でみると、『満足』は上昇、『不満足』は横ばい、「どちらともいえない」は低下しています。

●まちづくり全体の総合評価＜経年比較＞



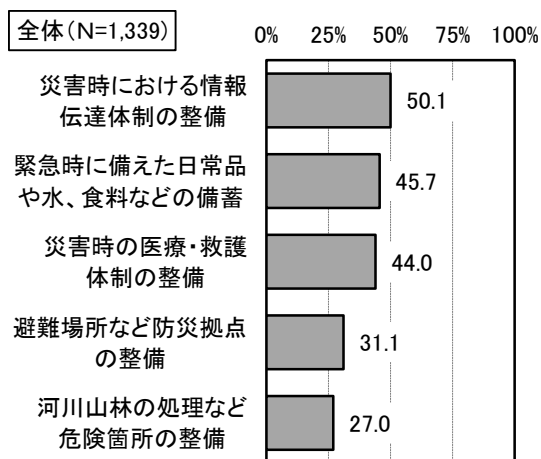
※『満足』は「とても満足」と「まあ満足」の合算、『不満足』は「やや不満」と「とても不満」の合算。
 ※「不明・無回答」は除いて比較しています。

5

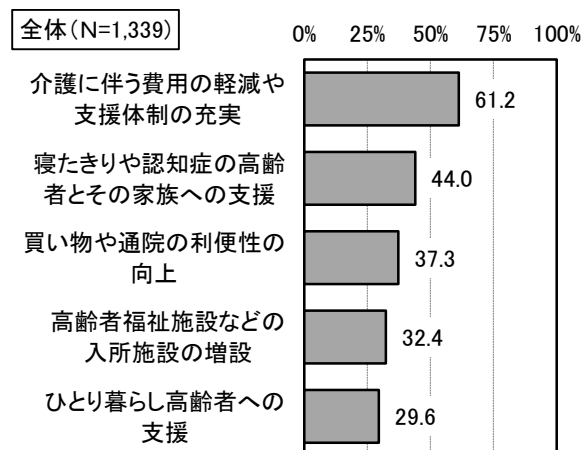
関市が今後力を入れるべき取組について

今後力を入れてほしい防災への取組については、「災害時における情報伝達体制の整備」が5割となっています。今後力を入れてほしい高齢化対策については、「介護に伴う費用の軽減や支援体制の充実」が約6割と最も高くなっています。

●防災への取組＜上位5位＞

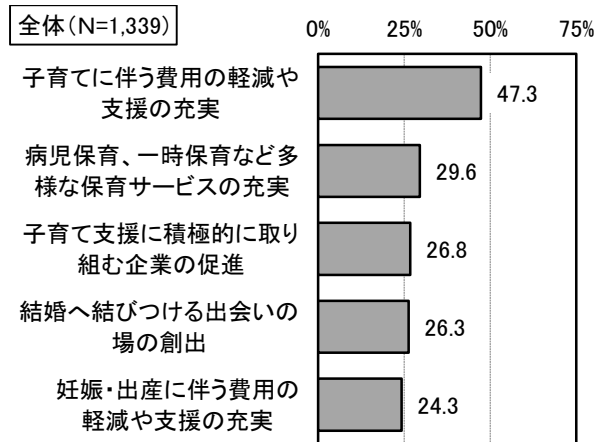


●高齢化対策＜上位5位＞

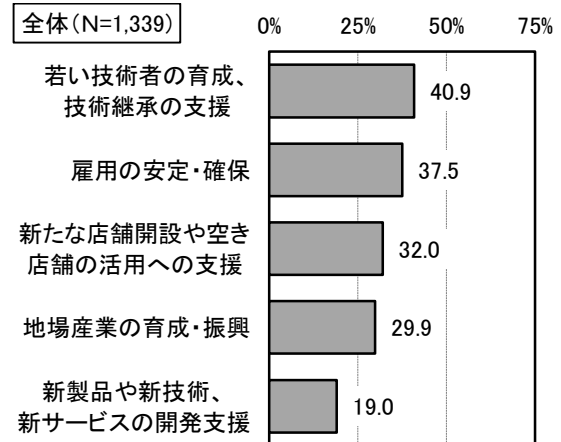


今後力を入れてほしい少子化対策については、「子育てに伴う費用の軽減や支援の充実」が約5割、今後力を入れてほしい商工業振興については、「若い技術者の育成、技術継承の支援」が4割と最も高くなっています。

●少子化対策<上位5位>



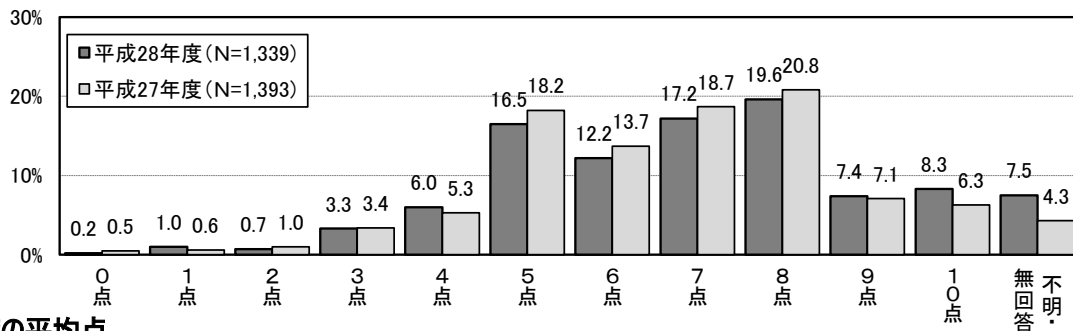
●商工業振興<上位5位>



6 幸福感について

市民の幸福実感を点数化すると、5点～8点で多く分布しており、全体の平均点は6.69点と、平成27年度の6.61点からやや上昇しています。幸福感を判断する際に基準とした事項は、「健康であること」「家族関係が良好であること」が高くなっています。

●幸福感の点数



幸福度の平均点

	平成27年度	平成28年度						
		全体	10、20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代
平均点	6.61点	6.69点	6.62	6.51	6.40	6.64	6.67	7.04

●幸福感を判断する際に、重視した事項

